山口大学医学部附属病院

産科婦人科

【 産婦人科の特色 】

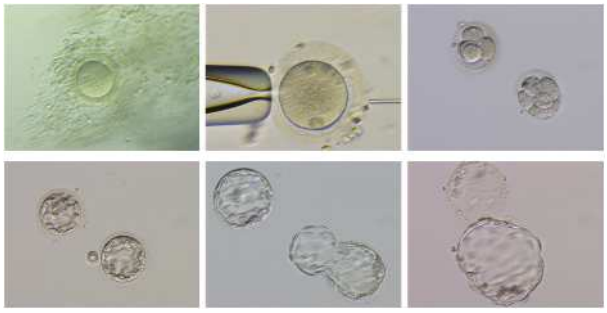
産婦人科は、思春期の初経から妊娠、出産を経て閉経まで、生物学的にダイナミックに変化する女性の生涯を通じて起こる多彩な疾患を対象にした学問的に非常に興味深い分野であり、周産期、婦人科腫瘍、不妊・内分泌、女性ヘルスケアの４分野より構成されています。内科的要素、外科的要素、心理的要素など幅広い領域が含まれており、それを実践する産婦人科医療は大変やりがいのある仕事であり、自分が興味ある医療を生涯にわたって追求することが可能です。当講座では、地域の基幹病院として一般的な診療を幅広く行いながら、各分野で高度な医療や研究を行っています。



婦人科腫瘍分野では、診断から治療まで包括的な医療を提供するとともに、それぞれの患者さんの状態に応じて、手術療法、化学療法、放射線療法などの治療法を適切に組み合わせた集学的治療を行っています。最新のエビデンスに基づいて当科での治療方針を定め、過不足のない治療を安全に行うことをモットーとしています。また、県内では数少ない施設でしか行えない「子宮頚癌の根治的放射線治療」や「早期子宮体癌に対する腹腔鏡下手術」を行っています。



周産期分野では、正常妊娠、ハイリスク妊娠、合併症妊娠に対して、先端の周産期医療を行っています。分娩監視装置や呼吸循環モニターを備えたMFICU（母体・胎児集中管理室）を開設し、これまでにあったNICU（新生児集中治療管理室）と合わせて、24時間体制で母体および新生児の搬送を受け入れています。「最後の砦」としての役割を果たすべく、日々活発に診療に当たっています。また全国でも数少ない施設でのみ治療可能である「双胎間輸血症候群に対する胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術」という胎児治療を行っています。



不妊・内分泌分野では、不妊症をはじめ、ホルモン異常、月経異常、子宮内膜症、子宮の先天奇形といった生殖領域の広範な問題に対応しています。若年者の月経異常に関しては、分子生物学的手法を用いたDNAレベルでの高度な診断を独自に行っています。また不妊症では多岐にわたる不妊原因の正確な診断およびそれに基づいた治療を行っており、一般不妊治療のほか、腹腔鏡や子宮鏡などの内視鏡を用いた治療、さらには体外受精・胚移植といった生殖補助医療も積極的に行っています。さらに当科での研究結果から、卵の質を向上させる目的で「メラトニン」を投与し、良好な成績を得ています。

講座内のミーティングとしては、週1回の病棟回診、週2回の病棟カンファレンスと、最新の医療情報を得るための週1回の抄読会を行っています。また、研究室では月1回のリサーチプログレスの発表会を開き、お互いの研究を検討し合っています。

【 研修内容 】

当院の初期研修プログラムには、一般的な「全方向型自由設計コース」の他に、産婦人科に関する領域を重点的に研修可能な「小児科・産科婦人科・周産期コース」が選択可能です。これは１年目から産婦人科研修を開始することで、早くから産婦人科に対する十分な知識や経験を養うことができるため、産婦人科専攻を考えている初期研修医の方には最適なプログラムと言えます。

【 研修目標 】

基本的な産婦人科診察法、検査法（超音波検査、細胞診、病理組織検査、骨盤部CT・MRIなど）、治療法（内科的治療および外科的治療）を習得することができます。指導医とともに病棟患者を担当し実際に治療にあたります。手術に関しては、研修早期から産科および婦人科の各種手術の助手を行うなど、手術の修練を行うことに力を入れています。また非侵襲的な検査法である超音波検査も実際に多くの症例に対し行うように指導しています。当科では指導医は10年目前後の医師がつき、基本的にはマンツーマン指導を行っていますが、実際には症例の偏りなども考慮して、各グループのいろいろな先生と一緒に症例を担当します。

【 研修スケジュール例 】

曜日	月	火	水	木	金
午前	手術	外来	手術	外来	外来
午後	手術	回診 カンファレンス	手術	手術	カンファレンス




月曜日（午前・午後）、水曜日（午前・午後）、木曜日（午後）が手術日で、担当医でなくても助手として手術に立ち会います。火曜日の午後に回診と症例カンファレンス、金曜日の午後から症例カンファレンスがあり、主に術前あるいは術後の症例についてプレゼンテーションを行います。基本的には平日の午前中は手術がなければ外来診療に携わります。その他の時間で病棟患者の診察（内診や超音波検査など）を行ったり回診やカンファレンスのプレゼンテーションの準備を行ったりすることになります。

【 キャリアパス 】

臨床に重点を置く者は、病棟や外来で臨床の研鑽に努め、研究に興味を持つ者は大学院に進学します。この大学院でのテーマは、産科婦人科学の中でも最も議論が盛んに行われている最新領域から、本人の希望も考慮して決められます。現在は、大学院修了後も研究に重点を置いている者、大学院で培った知識や思考法を臨床で活かしている者、臨床で卓越した経験と知識によりエキスパートになっている者が、互いに協力して教室を支えています。

【 指導医からのコメント　16 年目　梶邑匠彌先生 】



産婦人科では研修医の先生一人ひとりにそれぞれ指導医がつき、外来・病棟診療や手術、分娩などを経験してもらいます。急患対応では、産婦人科の救急疾患に対する初期対応を学ぶことができます。将来どの診療科に進んだとしても、女性患者さんを診ることは避けて通れません。産婦人科での経験は、きっと役に立つと思います。また、周産期・腫瘍・内分泌の三分野の症例をバランス良く経験できるように、指導医以外の医師とも症例を担当します。医療人として歩み始めた皆さんの日々成長していく姿をみることは、私たちにとっての喜びでもあります。私たち産婦人科医全員で、より良い研修ができるように全力でサポートさせていただきます。

【 先輩(若手医師)からのコメント　10 年目　川﨑真奈先生 】



私は本研修プログラムの周産期コースを選択し、1 年目の 4 月から 6 月までと、2 年目の 4 月と 11 月以降の計 9 ヶ月間、大学病院の産婦人科で研修を受けました。1 年目の 4 月から、研修医とは言え学生とは違い、診療に携わる一員として指導医が扱って下さったことで、医師としての責任感が芽生えました。日々、悪戦苦闘しながらも実りある研修生活を送らせていただきました。

検査結果の検証や薬の処方、治療方針の決定などについては、まずは自分で調べて考え、それを指導医へ伝えてから生きた知識を伝授いただくことで、理解が深まり、応用がきくようになります。指導医はもちろん、他の先生も時間を惜しまず丁寧にご指導下さいます。間違えることは恥ではありません。積極的にいきましょう。処置や手技も、山大産婦人科では、見学と練習をある程度したら比較的早く実践の機会を与えてもらえます。産婦人科に興味がある方は是非選択してみてください。

【 お問い合わせ先 】

山口大学医学部附属病院　産科婦人科　医局長　梶邑匠彌
TEL：0836-22-2288　E-mail：obgyn@yamaguchi-u.ac.jp